
決意の行方

啓至

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

決意の行方

【Nコード】

N1194E

【作者名】

啓至

【あらすじ】

コードギアス反逆のルルーシュのファンフィクションです。前作STAGE25のルルーシュとスザクが神根島に行く途中を書いたものです。原作重視で本編には殆ど絡んでいませんが、二人の精神的な部分を書けたらなと思って作りました。よく知っている方もご存じない方も拝見宜しく願います。コメントも待っています

手を伸ばした正義

虚空を求める天空の城は一つの銃声と共に脆く
そして儚く崩れ去った

「だから」

少年は言う

「ブリタニアをぶっ壊す」

力強く言い放ったあの言葉

羅列と呼ぶには幼く、辿々しい文章すらもあの口からは零れな
かった

けれどただ真っ直ぐに

唯一の光となって少年に刻み込まれた

左胸の奥深く、突き立てた刃は^{おもて}見窄らしく 誰よりも穢れなく

創ると決めた

守ると決めた

壊すと決めた

今、世界を壊すと誓う

白いだけの綺麗で儚く

唯 誰かの掌の中の世界なんていらな

いつか引き離されるくらいなら

この手の中に引き寄せられないのなら

君を守れないのなら

もうこの世界なんていらぬ

だから

「君を守るために 世界を壊す――――」

どれ程の犠牲を払おうと

幾人の血が流れようと

泣叫ぶ声が枯れようが 此れ見よがしに聴こえようが

そんなモノ知らない

唯 大切なモノが守りきれればそれでいい

誰も知らない

ナニモイラナイ

栄光きぼうも名誉ちいも自尊心プライドも 自分自身も

存在意義いざるいみは問わぬ

誰かの為に犠牲になるだなんて間違ってる

世界が俺を変えるんじゃない

俺が世界を変えるんだ

誰も変えられない 主張しようとしぬ

屈辱を味わおうと、殺されよう

『これは契約――――』

守り切れるのなら 力が欲しいなら
手を伸ばせ

世界^{おれ}に向かって
俺^{せかい}に向かって

ただ真っ直ぐに手を伸ばせ

掴み取れたモノがなんだったのか確かめろ
前を向け、振り返る勇気も正義も無くていい

「俺が、」

私が

僕が

明日が

今が

「正義だ」

だから――――――

せめて夢の中で

拭いきれない血の臭いで、微かに意識が遠退いた

「ここは・・・」

思い出さなくても判る

美しい花々 母さんが好きだった景色 季節の色が見える場所

夢の中 誰も知る事の無い 俺だけの世界の色

飛び込んできた人影

目の前には淡い桃色の長い髪をした細みの女性がしゃがみ込んで
背を向けていた

今となっては懐かしい、か

「・・・ユフィ？」

呟いた声に目に映る景色はそれに応えるように色付いて染まっ
ていく

「ルルーシュ！」

目の前の女性—— ユフィは俺に呼ばれた瞬間に満面の笑みで
駆け寄ってきた

彼女の両腕にはいっぱいに花束が抱え込まれている

真っ白な薔薇の花

「元気にしてたの？ ナナリーは？」

飾らない、いつものままの彼女の声 仕草 微笑む時の嬉しそう

な表情

泣きたくなるようなその 純粹なままの 綺麗なままの彼女だった

何も変わっていないそのままの

「元氣、だよ。ユフィ」

切れ切れになる言葉の節々に痛みを伴うような 泣き出したくなるような

そんな気がした

「そう・・・」

ほっと胸を撫で下ろしたような表情に俺は息をついた
安心したような 気休めの溜息

その時ユフィが目の前から姿を消して、突然背後から声が聴こえた

「そうやってまた逃げるのか」

一瞬で黒く塗りつぶされた景色

飛び上がりそうになる心臓

止まりそうになる呼吸

冷や汗が出るほど その存在に恐怖を感じるほどに

「スザク・・・!」

振り返ると、一人の青年が鮮血に我が身を染めて立ち尽くしている
その手には弾丸で打ち抜かれたユフィを抱いて

「誰かを踏み倒してまで進みたいのか!？」

お前はそれで満たされるのか!？

ユフィを殺してでも それでも手にする世界って何なんだよ!!!
一体それでお前の何が守れたっていうんだよ!!!

「応えろ！ルルーシュ！」

青ざめた顔をしたユフィから流れ出る　溢れ出る血は止めどなく

白い薔薇を鮮血の紅に染めて逝く――――

カチャリ、とスザクに拳銃を向けられた

食いしぼる歯には力がなく、翠色の瞳には涙と憎しみが入り混じっている

俺はただ立ち尽くすしかなかった

スザクの指がゆっくりと弾きがねにかかる

それでも俺は……

瞼をゆっくりと閉じた瞬間

「これは契約、王の力はいつかお前を孤独にする――――」

背後から聴こえたC・C. の声

ハッとして向き直ると

血の雨が降る中でC・C. が唯俺を見つめていた

「C・C. ……俺は、俺は………」

もどかしく広がっていく感情

虚しさの中で見つけた閃光

かけがえのない者

欠落したのは俺自身

「取り戻す方法はない」

降り続ける血の雨の中で彼女は言う

「決めたんだろう、壊すと」

迷うな

その瞬間、俺の視界は白く染まった

壊すという誓い

「ルルーシュ、おいルルーシュ。聞いているのか？」

目の前 吐息を感じ取れるほど近くにC.C.の顔はあった
眠っていた

いや、違うか

ただ耄けていただけ

居なくなつた妹の存在 消してしまった初恋の灯火

崩した親友の支え

あの時に放つた銃声音がまだしこりのように耳の中に残っている

スザクの叫んだ声

倒れ込んだユフィ

躊躇いもなく弾きがねを引いたわけじゃない

悲しさも寂しさもなく打ち抜いたわけじゃない

けれど、

思ったところで声がした

「ルルーシュ、何を考えているんだ？」

「なんだ、突然」

神根島まで行くにはまだ時間もあつた

コーネリアを落としたことで時間の余裕もあつた

ナナリーのことを考えるまでは

君がいなければ意味がないんだ

世界を壊す意味もない

俺が居る存在も理由もすべて意味の無いことになる
だから、どうか無事で――――

俺の返答にC・C・は溜息を押し殺したような顔をした
「なんだ、ではない。そんな気持ちで一体どうしようというのだル
ルーシュ」

今のお前は一体何なんだ

何を迷っている？

何に臆している？

「お前は何をしたいと望んだんだルルーシュ、」
力を欲したんだろう？

何を戸惑うことがある

その問いに俺の口では容易く応えることなどできなかった
宙を彷徨う言葉が紡いでいく、口の開いた端から溢れ出るモノを
止めようとは思わなかった

「契約の思いは変わっていない、ただ」

「唯、何だ」

「少し考えるんだ、時折 どうしようもなく」

世界とは何なのだろう、と

性懲りもなく現れては消える淡い感情を押し殺せない
本当は間違ったやり方なのかもしれない
人を殺して、それでも手に入れようとするのは
でもそれでも守りたいモノが大切なモノがあるから

けれど

「スザクの顔が忘れられないんだ」
本当に失いたくない綺麗な思い出達をこの手で葬ってきた

ユフィもスザクの信頼も

ナナリーでさえも

もう元にも戻れない 後悔はしてない 絶望もない

この憎しみにも似た殺意を売り払ってまで手にした力ははたして俺の世界を変えられるのか

食い潰されない自信が有るとは言い切れない

前へ進んだその先に一体何が在るのだろうか

知るのが怖いとは思わない 振り返りはしない この歩みを止めようとは思わない

ただ

「俺は俺でいられるのか、」

感傷に浸るな

正義だけを考えろ

ただのテロリストになってはしないか？

本当に守れているのか？

これで世界は変わるのか？

終焉を迎えられるのか？

「だから—————」

途端、瞳の中が押し潰されそうなモノでいっぱいになった

もう声も出ない

俺の世界を支えていた存在が居なくなった途端にこうも自分は弱くなるのか

実感する孤独感と虚空の闇夜を舞うような痛み

霞んでいく目の前の視界にそっとあたたかな掌が降ってきた

「契約したろう、私はお前の傍に居ると」

だから

「迷うな」

抱き寄せられた手の中で夢の中に出てきた白い薔薇が見えた気が
した

もう紅に染まった血は^{あか}戻せない
そう言われているようだと思った

大切な誰か

神根島へ向かうランスロットの中で 性懲りもなく俺は焦っていた
何度も何度も送られてくるブリタニアからの通信

鬱陶しく感じて回線を素手で切り離れた

間もなく海に出ると、がむしゃらに速度を速めていくうちに俺の
中に自分自身の欠片も無い

憎しみと憎悪だけの汚い自分がいることに気が付いた

心音を落ち着けようと深く息を吐いて俯いた

腹立たしい、祈りにも似た 願ってはいけない感情

けれど冷静にもなりきれない自分がもつと腹立たしかった

弾きがねを引いたゼロよりも

何よりも

守りきれなかった自分が死んでしまえばいいと思えるほどに

着替えの終わった服にはしみ一つなく、さっきまで生温かい血が
付いていたことなど嘘のように思えた

けれど、もう戻らない

戻りはしないあの時もあの瞬間も全て

倒れ込んだユフィ

鳴り響いた銃声音

見つけた瞬間のホッとした安堵感

楽しさで溢れていた騎士としての日々
毎日が色付いていた 永遠に続いていくと思っていた日常

音を立てて崩れ落ちたのは いつから？
こんな風に憎んだのは いつから？

俺がこんな風に人を殺したいと望むようになったのは いつから？

解らない答えの先に一体何が待っているというのだろう
ゼロを追って、その先には何が在るのだろう
見い出せない答えの先には？
今俺が向かっている先には？

どうしてだろう、ついさっき電話越しで聞いた友の声も思い出せないなんて

「ルルーシュ・・・」

もし君が今の俺だったとするのなら、何て言ったのかな
聞いておけばよかったと今更後悔していた
縋るものはいつだって
心のよりどころはいつだって

大切な誰かで在って欲しいのに

もう最愛の誰かは居なくて

この世界にいないくて

俺の隣にはいなくて

もうあの笑顔で微笑みかけてはくれない

けれど今俺はここで呼吸をしている

こんな風に生き残るだけだったのなら

ただ呼吸をしているだけで生きていけると言えるのだろうか
こんな風に朽ちていくだけだったのなら
何で君がいなくならなければならなかったのだろうか

君の存在が消えたこの世界で どうして俺だけが生きているんだ
ろう

「ユフィ・・・・・・・・」

呟いた声ですらも頼りない 消えてしまいそうな世界の中で君だ
けが輝いていたのに

お願いだから、記憶の中から消えないで

消さないで

俺の記憶の中から彼女だけは――――――

目の前を見据えた瞳の中にグチャグチャの感情が入り混じったモ
ノが溢れ出した

止まらない 止められない

吐き出した吐息ですらも

今叫びだしたい衝動も

願う 望む 残酷な自分がいることも

全て消し去ってしまいたいと思う自分自身ですらも

握り直した拳は俺自身の正義であって欲しいと強く
強く望んだ

正しい行いをしてきたわけじゃないから

せめて君のためだけには優しく 強く 本当でいさせて欲しいと
思ったから

だから

「もう迷わない」

君のために世界を変える

正義の行方

世界は

人々は決断を迫る

答えるのは世界のルールか？

それとも憎しみか 愛情か 不変か

壊す事を決めた者と壊す者を決めた者

そこに正義などない

在るのは人間

間違っても戸惑いも不公平も何もない

全て望むがままに

己の意志のままに

誰かが力を求めるならば

決意を胸に秘めたなら

突き進むその先の答えなど知らない

哀しみも寂しさも全て亡くしてしまえばいい

失ってしまったえば大切だと感じていた重みに気が付くはずだから

手を伸ばすと決めたなら

振り返る理由が何処にある？

彷徨い続ける景色の中で人々は 世界は 決断を迫る

果てなく動き続ける時の流れには

誰も逆らうことなど出来ない

「君を守るために 世界を壊す――――」
フリタニア

誰かの為に犠牲になるだなんて間違ってる

「俺はゼロを――――」

誰かの為に犠牲になるだなんて間違ってる

運命と呼べるものなんてこの世に存在しない

道しるべはその揺るぎない心

強く望めはそれでいい

他には何もいらない

大切なモノが守りきれないのなら

この掌から零れ落ちていくのなら何もイラナイ

世界が俺を変えるんじゃない

俺が世界を変えるんだ

こんな世界にしていはいはすがない

俺があいつを止めるんだ

交錯する白と黒の影

二度と交わることのない 世界の色は何色だろう

守りきれぬのなら 力が欲しいのなら 手を伸ばせ

俺^{せかい}に向かつて

おれ 世界に向かつて

ただ真っ直ぐに 迷わずに

掴み取れるものが何か確かめろ

前へ進め 振り返る自分なんていなくていい 存在しなくていい
そんなものはない

「俺が」

「俺が」

今が

明日が

世界が

時が

終わりへ集え 待ち焦がれた世界の扉は閉じることなどない

「正義だ」

「正義だ」

だから――――――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1194e/>

決意の行方

2010年10月10日07時15分発行